



NTO ライトキャビネット L type 取扱説明書


このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
(この説明書は、必ず保管しておいてください。)


安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。


 警告	回避しないと、死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害のみの発生するおそれがある場合を示します。

●お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。





 気をつけていただく内容です。






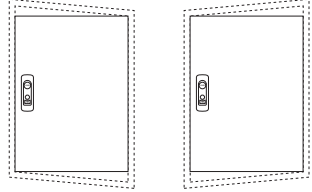
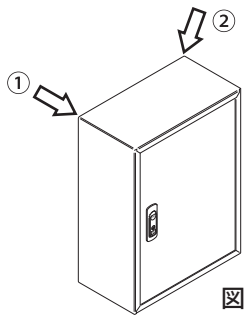
 してはいけない内容です。

 実行しなければならない内容です。



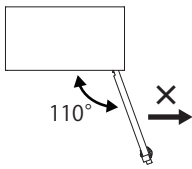
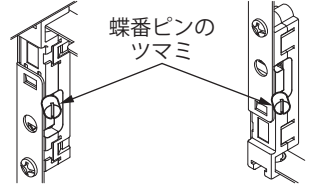
なお、 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■施工上のご注意

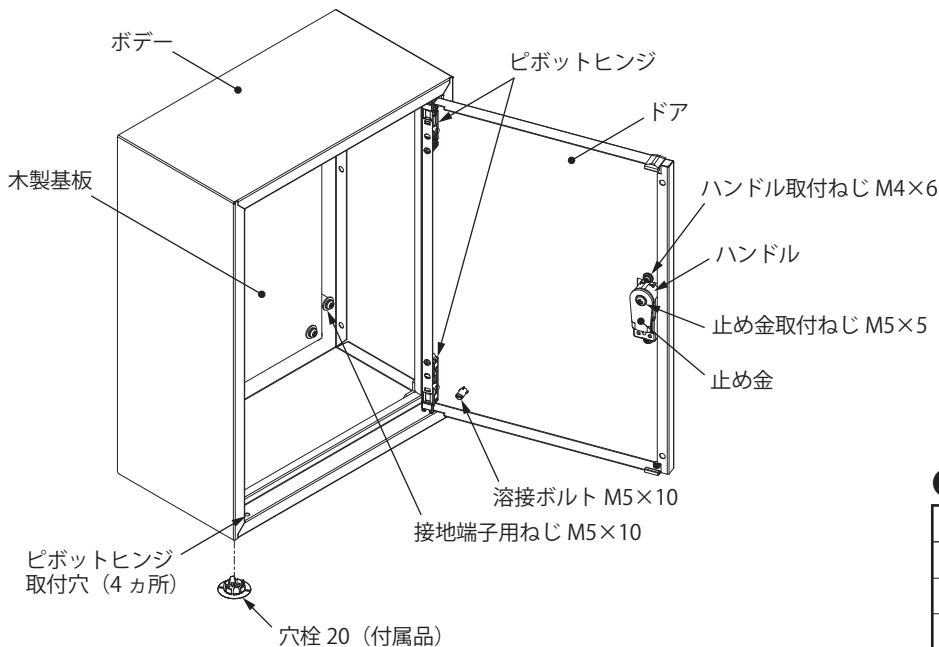
 警告	
 アースせよ	接地端子を利用して、アース接続を必ず行ってください。感電の原因になります。
	キャビネットを足場にして作業しないでください。キャビネットが変形し、落下・けがの原因になります。
	電気工事（設置・施工）は、有資格者が行ってください。故障・感電・けがの原因になります。 電気工事は「電気設備技術基準」および「内線規程」を厳守してください。故障・感電・けがの原因になります。

 注意													
	本製品は屋内用です。屋外では使用できません。												
	本製品に落下などの強い衝撃を与えないでください。へコミや歪みが発生し、強度の低下の原因になります。 機器取付の際は、機器取付可能質量を超えるものを取付けないでください。破損・落下・故障の原因になります。												
	使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下などの原因になります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。												
	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">機器取付可能質量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基板</td> <td>15kg</td> </tr> <tr> <td>ドア</td> <td>2kg</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>ねじの呼び</th> <th>適正締付トルク N・m</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M4</td> <td>1.5 ~ 2.0</td> </tr> <tr> <td>M5</td> <td>1.8 ~ 2.9</td> </tr> </tbody> </table>	機器取付可能質量		基板	15kg	ドア	2kg	ねじの呼び	適正締付トルク N・m	M4	1.5 ~ 2.0	M5	1.8 ~ 2.9
機器取付可能質量													
基板	15kg												
ドア	2kg												
ねじの呼び	適正締付トルク N・m												
M4	1.5 ~ 2.0												
M5	1.8 ~ 2.9												
	<p>壁面が平坦でなくキャビネットにひずみが生じた場合は、下記の方法で調整してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 2</p> </div> </div> <p>図1の①のようにひずみが生じた場合は、図2の①↓の本体と壁との間にスペーサなどを入れてください。 図1の②のようにひずみが生じた場合は、図2の②↓の本体と壁との間にスペーサなどを入れてください。</p> <p>【オプションパーツのご案内】 スペーサには、オプションの「壁掛け用スペーサ」をご利用ください。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>品名記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁掛け用スペーサ</td> <td>BP17-12SK</td> </tr> </tbody> </table>	名称	品名記号	壁掛け用スペーサ	BP17-12SK								
名称	品名記号												
壁掛け用スペーサ	BP17-12SK												

■使用上のご注意

⚠ 注意	
 指に注意	<p>ドアを勢いよく閉めないでください。指を挟みけがの原因になります。</p>
	<p>ハンドルのシリンダーにキーを差し込んだ状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けしないでください。キーの変形・破損の原因になります。</p>
	<p>シリンダーの施錠位置あるいは解錠位置以外では、キーを無理に引抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。</p>
	<p>ドアの開閉角度は約110°です。ドアを開けた状態で右図の矢印方向にさらに荷重を掛けしないでください。ドアおよびピボットヒンジ部の変形・破損の原因になります。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
	<p>止め金を組付けずにハンドル操作を行わないでください。取手が脱落するおそれがあります。</p>
	<p>ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。キーの抜き差しが硬くなるおそれがあります。</p> <p>ドア取付時は、ピボットヒンジの蝶番ピンのツマミを、図のように外側のくぼみに確実に押込んでください。押込みが不十分な場合、ドアが落下し、けが・故障の原因となるおそれがあります。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

■各部の名称



●付属品

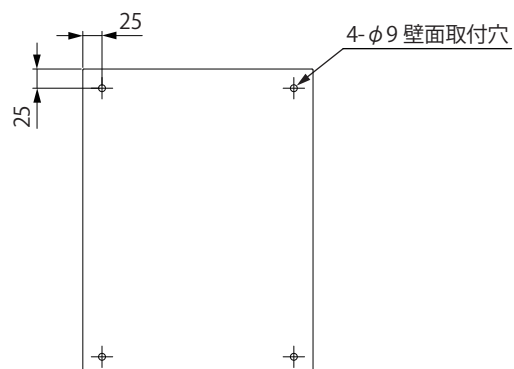
名称	数量
穴栓20	1コ
キー (No.200)	1コ
取扱説明書 (本紙)	1部

■取付方法

キャビネットを壁面に設置する際は、ボデー背面の壁面取付穴をご利用ください。取付穴を使用しない場合は、シールなどで取付穴をふさいでご利用ください。

【壁面取付穴位置】

(単位：mm)

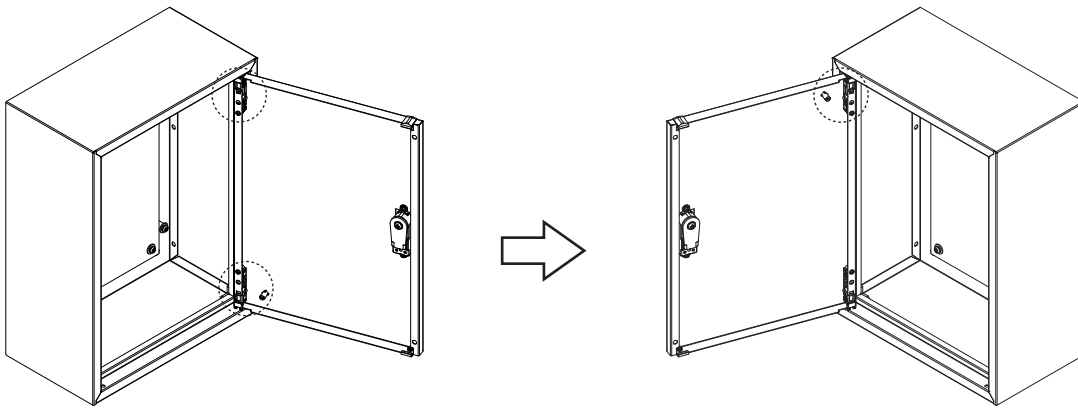


■ ドア開き方向の変更方法

ご注意

ドア開き方向を変更した場合、以下の点にご注意ください。

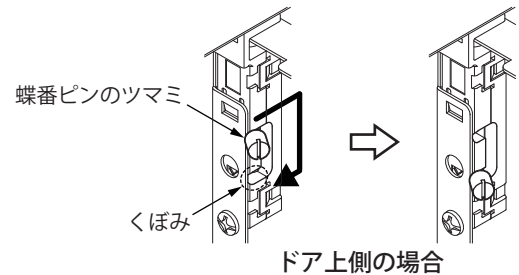
- ・溶接ボルトの位置が上部になります。
- ・ハンドル取手の回転方向が取手の矢印と逆になります。(矢印ラベルを用意しておりますので、別途お問い合わせください。)



1. ピボットヒンジの蝶番ピンのつまみを、右図の矢印➡のように動かし、ドアを取外してください。

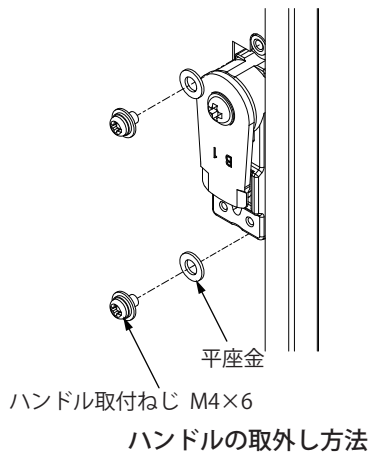
ご注意

- ・ドアの取外しは、上側のピボットヒンジから操作を行ってください。
- ・蝶番ピンのつまみは、上側のピボットヒンジは下のくぼみ、下側のピボットヒンジは上のくぼみに押し込んでください。



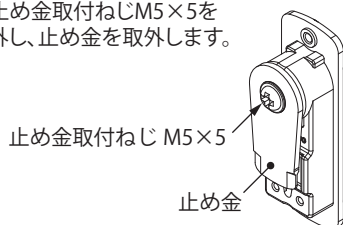
ドア上側の場合

2. ドアからハンドルを取外し、取手の回転方向と止め金の向きを変更します。ドアの上下を反転させた後、ハンドルを取付けてください。

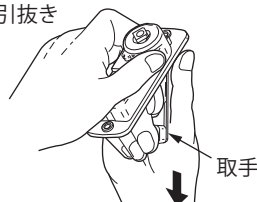


● 取手の回転方向の変更方法

- (1) 止め金取付ねじM5×5を外し、止め金を取外します。



- (2) 図のような姿勢で、取手を下に引抜きます。



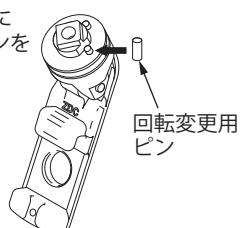
- (3) 図の位置の回転変更用ピンを外します。

ご注意

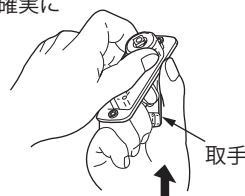
下向きにすると、回転変更用ピンが外しやすくなります。その際に、外した回転変更用ピンをなくさないようにしてください。



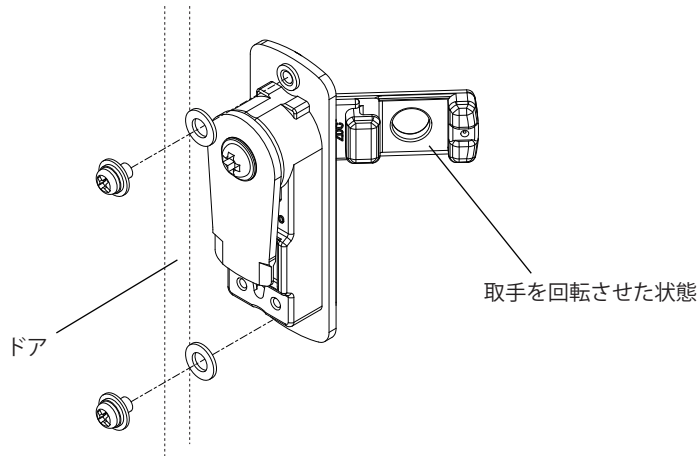
- (4) 図の穴の位置に回転変更用ピンを挿入します。



- (5) 図のような姿勢で、取手を本体に確実に組込みます。



ハンドルの回転方向を変更後、止め金を下図の向きでハンドルに取付けてください。



3. 1と逆の手順でドアを取付けてください。

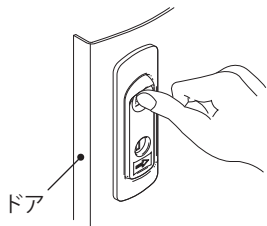
ご注意

- ・ 下側の蝶番ピンが、ピボットヒンジ取付穴に確実に入っていることを確認してから、上側の蝶番ピンを差込んでください。
- ・ ドア取付後は、ドアの外れ、がたつきがないか必ず確認してください。

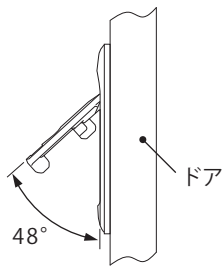
⚠ 注意	
!	<p>ドア取付時は、ピボットヒンジの蝶番ピンのツマミを、図のように外側のくぼみに確実に押込んでください。押し込みが不十分な場合、ドアが落下し、けが・故障の原因となるおそれがあります。</p>

■ハンドルの操作方法

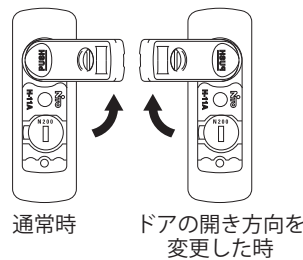
1. PUSH部分を押ししてください。



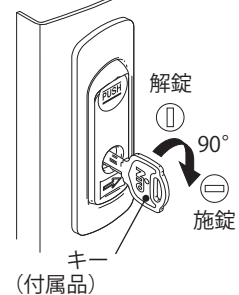
2. 取手が48°飛出します。



3. 取手を握り、矢印の方向へ回し、ドアを開きます。



4. 施錠は取手を閉じて、キーを右へ90°回してください。



仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
 また、ご不明な点がございましたら弊社お客様相談室にお問合わせください。
 この説明書の内容は2018年4月現在のものです。

B900120921
SK-094B